故郷を遠くに在りて想う時

中国見てある記

横芝町訪中議員団

成田からわずか4時間、そこは気候も風土も異なり、故郷横芝と対比して余りにも異なる中国の首都、北京であった。

私たち訪中議員団17名を出迎えたガイドが4名、ガイドであるが出迎えた言葉が、彼女たちが普段用いるガイド言葉でないため、まずつまずいた。

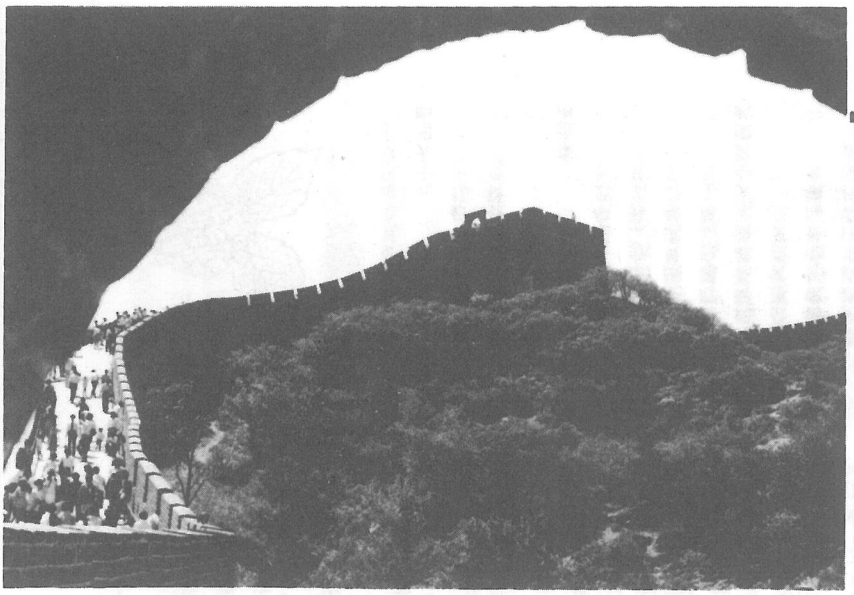
そのガイド4名が、これからの7日間、私たち17名に付いて回るのである。

中国を語る前にまず経済の差違、すなわち、金銭感覚の相違の説明から入らなくてはならない。

百円が最高券で五十円・十円・一円、そしてその下が、角・分とつながり、円を元とよぶ。物価は、日本の昭和20年代で何円何銭であり、日本の一万円は約百八十七円位である。

更に分かりやすくするために買物で比較してみよう。

大型旅行カバン1個を求めたら37元である。日本円に換算すると二千三十四円となる。



中国の象徴「万里の長城」

人民公社・女村長

私たちは、まず北京市内の人民公社を訪れた。ここを村と呼び、共存共栄を目的とする一つの企業体であり、村長・副村長・党中央指導員及び数名の事務職員が統治し、印刷・食品加工等に従事する村民は600名と聞く。無造作な私たちの質問に対し、40歳の女村長は誠に首長らしくテキパキと答えてくれた。

村長の月給は二千六百円で、平均給は一千五百円位とのことだが、他の事業所に比べ極めて高給である。標準的一家族の生活費は一ヵ月四百円位であるという。

産児制限を法制化

この国は、今経済復興のためあらゆる施策がなされ、重要施策の一つに産児制限があり、一子であることが法制化されている。その対策として、既婚者は毎月厳重な診査がなされ、共産圏に不倫は存在しない。

そして今ようやく、観光事業による外資導入も本格化しつつあるが、微笑接客は全くなされない、思想のなせるためか？

非才な私共に異国の政治の思想を論ずることはつつしまなければならない。私たちとの考え方の相違はさておき、異国の政治は異国の政治として尊敬し、見たままを記そう。

自転車の波

北京～南京～蘇州～上海と歩を運ぶのであるが、国土が広いためか道路は立派である。ほとんどが50㍍の道幅があり、メーンストリートは180㍍とは驚きである。

そして乗物の90%は自転車で、自動車はほとんど日本製の中古車である。白バイが手回し始動には一驚。信号は珍らしく、交通規制は全く無く、誠に迷運転である。

私たち一流だと言うホテルに案内されたが、各室には蚊取線香の煙が漂っている。それでも14インチのテレビは備えてある。一流のゆえんであろう。

午後9時、ようやく大陸の夕暮が始まり、満されない食欲を持参のカップヌードルで舌つづみを打つ。

名所古跡は誠に雄大である。万里の長城・明の十三陵、そのすべてが帝政時代の遺跡であり、ガイドは熱ぽくここを賛美する。革命と言う名の争いで帝政を追い人民政府を樹立した。それがなぜ、帝政の遺物を賛美するのか？……難問は逃げよう……。

私たちは汽車にも乗った。手

女村長を囲んで